

滋賀県平和祈念館 年報

第 6 号

(平成 29 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、県民のみなさまの大きな期待と希望をになって開館しました。

開館の初年目にあたる平成 24 年度の活動（23 年度分を含む）については、『滋賀県平和祈念館 年報』第 1 号を平成 25 年 12 月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告したところです。本号では、ひきつづき平成 29 年度の活動をまとめています。

本館の運営にあたっては、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を継承する事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

平成 29 年度の展示事業としては、まず本館の開館 5 周年を記念して、第 17 回企画展示『シベリア抑留—ユネスコ世界記憶遺産—』を舞鶴引揚記念館の資料をお借りして開催しました。さらに第 18 回企画展示『戦時のくらし モノがたり—もの不足 食糧不足—』、第 19 回企画展示『野洲郡 北里村—戦時下のムラの人と風景—』のほか、『ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター展』などを行いました。そして戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理は引きつづき精力的に続けています。

平成 29 年度の普及啓発事業では、3 回にわたる原田敬一佛教大学教授による大人のための歴史教室「映画で考える歴史」をはじめ、昨年度から進めてきた「滋賀県戦争遺跡分布調査」の成果報告を 3 回にわたって開催しました。また、年々参会者が増えすっかり本館の行事として定着した「戦争体験を聞く会」および映画上映会を毎月開催しました。戦争体験者の映像記録の事業も着実に進み、常時公開しています。

一方、子供向けの事業として「へいわの学校あかり・ピーススクール」の通年開催、そして「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール」も実施することができました。さらには「自分史づくり講座」など、大人から子どもまでが参加できるさまざまな事業をおこないました。

平和学習支援事業では、児童生徒の来館学習や出前講座にくわえて、パネル展示などをつうじた地域への平和学習支援もおこなっています。本館ではボランティア活動もさかんで、現在の登録メンバー 48 名（平成 29 年度末現在）で 7 つのグループ活動があり、本館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。

平成 29 年度末で開館以来の来館者総数は 14 万 7 千人を超え、出前学習利用者を加えると 20 万人近い人々に祈念館をご利用いただきました。

これもひとえに県民のみなさまのご支援のたまものと思います。

今後とも本館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成 30 年（2018 年）8 月

滋賀県平和祈念館館長 端 信行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 企画展示関連事業	13
(3) 特別企画展示	15
(4) 地域交流展示	16
(5) その他の展示	19
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	21
(2) 収蔵資料の整理・保存	22
(3) 滋賀県戦争遺跡分布調査報告書作成	23
3 普及啓発事業	
(1) 平和学習講座「梵鐘を守れ！ - 文化財保護をめぐる戦時下の裏面史 -」、 平和学習講座「戦争遺跡分布調査報告会」(3回連続講座)	24
(2) 大人のための歴史教室「映画で考える歴史	26
(3) 戦争体験を聞く会	26
(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク「米原市の蒸気機関車避難壕の見学&水谷 先生の平和学習講座」	31
(5) 平和を祈念する日事業「今こそ語ろう、語り継ごう！戦争のことを…」	31
(6) 開館6周年記念事業	33
(7) 館長講座「自分史づくり講座」	34
(8) 映画上映会	34
(9) 平和の学校あかり・ピーススクール	36
(10) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール	41
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	44
(2) 出前授業	45
(3) 地域への平和学習支援	46
(4) 資料の貸出による平和学習支援	46
(5) 戦争体験者証言映像の制作	48
5 ボランティア活動支援事業	49
II 資料	
1 利用状況	52
2 広報活動	56
3 組織	60
4 決算	61
5 施設概要	62
6 利用案内	63
7 関係規程	64

I 事業概要

1 展示事業

(1) 企画展示

開館5周年記念特別展示（第17回企画展示）

「シベリア抑留 - ユネスコ世界記憶遺産 舞鶴引揚記念館所蔵品より -」

○会期 平成29年（2017年）4月29日～9月3日

○会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

○開催趣旨と概要

趣旨： 敗戦後、ソ連軍捕虜となった日本軍人等は、シベリアなどソ連各地に収容され、過酷な労働に従事させられた。極寒・飢え・重労働に苦しんだ抑留者の数は60万人以上、死者5万人以上といわれている。

抑留と引揚に関する資料を収集してきた舞鶴引揚記念館の所蔵資料は、平成27年にユネスコ世界記憶遺産に登録された。今回は当館開館5周年記念特別展示として、そのうち抑留絵画を中心に複製品を展示・紹介した。



第17回企画展示チラシ



展示の様子

概要：

【プロローグ】

舞鶴引揚記念館が常々象徴的に使用している引揚・再会の写真をプロローグの背景におき、記念館が所蔵するシベリア抑留・引揚関係資料の「ユネスコ世界記憶遺産登録証（模造）」を展示した。

【ユネスコ世界記憶遺産 抑留体験の記録】

「世界記憶遺産」に登録された木内信夫さん、羽根田光雄さん、安田清一さんの抑留絵画(複製)と、瀬野修さんの白樺日誌(写真)、抑留関係資料を紹介した。



【ユネスコ世界記憶遺産 帰還を願う家族】

抑留者を国内で待つ家族に関する資料として、「岸壁の母」と呼ばれた端野いせさんの写真・手紙(模造)、モスクワ放送で抑留者の安否を確認し、その情報を家族へ知らせ続けた坂井仁一郎さんの葉書等(模造)を紹介した。



【県民のシベリア抑留】

シベリア抑留を経験した県民の体験談と、抑留で使用されていた衣類、手作りの食器、検閲を免れて持ち帰ってこられたメモ類を紹介した。



第18回企画展示「戦時の暮らし モノがたり -もの不足 食糧不足-」

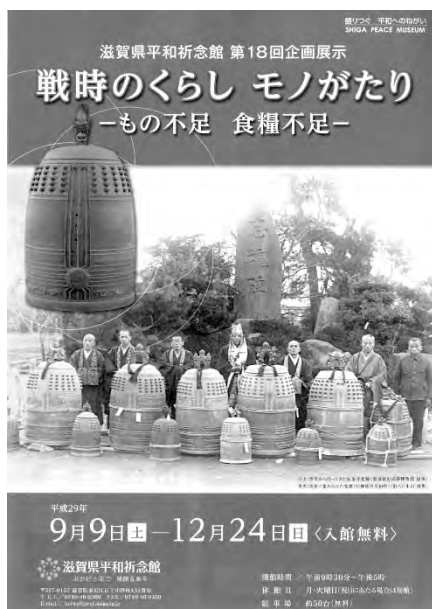
○会期 平成29年(2017年)9月9日～12月24日

○会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

○開催趣旨と概要

趣旨： 中国や東南アジアを植民地とする米英蘭など、日本を取り囲むすべての国と激しい戦争をしていた日本。資源が乏しい日本は人材・物資・財産のすべてを戦争完遂にそそぐ「国家総動員」体制でのぞんだため、国民は極端な耐乏生活をしいられた。

軍事物資に活用するために供出された日常金属製品にかわり、陶器・布・紙製の代用品が使用され、また米や野菜にかわって「代用食」を食べるのが日常となった。今回は当時の耐乏生活のようすを、もの資料と体験談で紹介した。



第18回企画展示チラシ



展示の様子

概要：

【プロローグ】

現東近江市平田町の梵鐘供出の写真为背景として、当時の物資統制を象徴するものとして、軍事物資のために流通が規制された皮革製品にかわって作られた、紙・アルミ・竹・布製のランドセルを展示した。

【お寺の鐘の供出】

昭和 17 年、寺院梵鐘が一齐に供出されたときの記念写真と、栗東歴史民俗博物館から借用した返還梵鐘を展示した。本品は供出時に成分分析のための穿孔が残り、戦後返還された例である。そのほか県内寺院の返還梵鐘の写真、梵鐘救出に奔走した県職員日名子元雄さんと文書を紹介した。



【金属製品の代用品】

供出しなければならぬ金属製日用品にかわり、陶磁製・木製の代用品が作られ、実際に使用された。今回は本館所蔵品に加えて、青山均氏の協力を得て氏のコレクションを紹介した。





【庶民の生活】

金属の供出と食糧に対する厳しい統制は、青年男性を徴兵・徴用にとられた家庭生活に深刻な影響をおよぼした。戦争のために家庭生活の様々な面を犠牲にするよう呼びかけたポスターを紹介するとともに、配給による食生活がいかに厳しいものであったかをパネルで解説した。



【戦時の食糧難】

食糧統制下の生活を物語る体験者の証言を紹介し、旧朽木村市場区の区有文書に見える、大麦・梅干し・木炭・米の供出の実態を紹介した。



第19回企画展示「野洲郡 北里村 - 戦時下のムラの人と風景 - 」

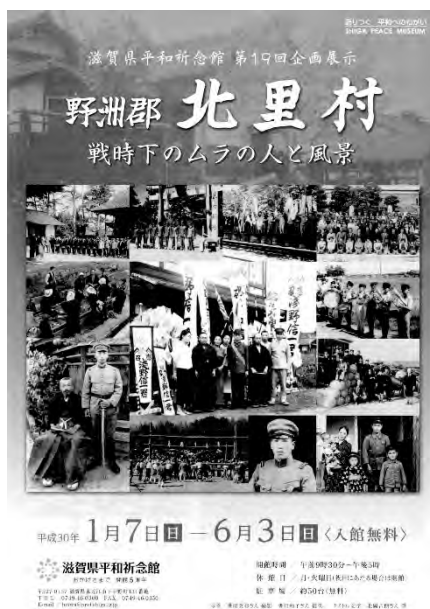
○会期 平成30年（2018年）1月7日～6月3日

○会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

○開催趣旨と概要

趣旨： 現在の近江八幡市北里学区は、昭和10年代には野洲郡北里村と呼ばれていた。北里村の5つの大字のひとつ、野村におられた晝田英杉（ひるたひですぎ）さんは、昭和13年に日中戦争出征者の家族の記念写真をはじめとして、水郷の風景や戦時のムラのくらしがうかがえる、多数の写真を撮影されていた。

今回は晝田さんの写真を中心にして、戦時色におおわれてゆくムラのようすを紹介した。



第19回企画展示チラシ 表面



展示の様子

概要：

【プロローグ】

晝田英杉さんの写真を背景におき、地域住民を戦争協力にみちびくリーダーとなったといわれる在郷軍人会関連の史料を展示した。

【北里村の風景】

北里村の沿革を解説し、終戦直後の空中写真で地理を説明。晝田さんが残した水郷の風景、神社の行事、橋の開通式、学校行事など、当時の北里村の日常風景をとらえた写真を展示した。



【晝田英杉さんご家族】

晝田英杉さんおよび写真を保管しておられた長女の和子さんらご家族の写真と、遠縁にあたる晝田利秋・寛治・修さん三兄弟の出征記念写真と戦死された利秋さんの遺品（正装軍服とコートなど）を展示し、晝田さんのご家族を紹介した。また、本展の写真解説をお願いした梅村昭一さんの叔父末吉さんの遺品（農事調査書と蓄音機）を展示した。



【ムラのつながり】

晝田さんのアルバムには、戦時特有のムラの組織である国民学校・青年学校、警防団、国防婦人会の記念写真が含まれている。これらの写真を展示するとともに、戦争に国民を総動員する仕組みを解説した。



【出征】

昭和13年5月に撮影された出征記念の家族写真が多数含まれ、このとき日中戦争へ大量動員されたことを示している。この写真と、写真にも写っている出征幟を本館所蔵品から展示した。本展の中心をなす部分である。



【無言の帰還】

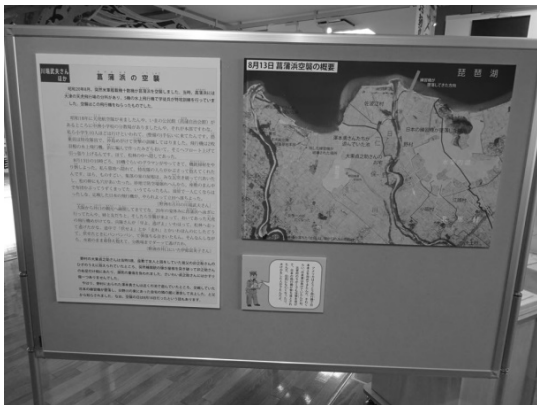
北里村へ骨となって帰還した戦没者は自宅の祭壇にまつられ、本葬として国民学校の講堂で村葬が行われた。村葬へむかう葬列と村葬のようすを写した写真を展示するとともに、戦没者とその家族のようすがうかがえる豊郷町北川儀一郎さん宅の手紙類を紹介した。



【戦争末期の北里村】

出征幟で見送ることがなくなった太平洋戦争中の出征式の写真と、北里村から沖縄へ出征された木本さんの体験談を紹介した。また、戦争末期のムラのようにとして、食糧増産・梵鐘供出・北里村を襲った空襲について紹介した。

最後に写真が撮影された場所の現在のようすを古写真とともに展示し、特別に貸与された晝田和子さんの書を展示した。



(2) 企画展示関連事業

○開館5周年記念特別展示（第17回企画展示）関連

①オープニングセレモニー

平成29年4月29日（土）

9:50 開館

10:00 館長あいさつ

テープカット

（舞鶴引揚記念館 山下館長、
滋賀県健康医療福祉部 藤本
部長、当館 館長）

10:15 学芸員による展示説明

11:00 講演会

『世界の記憶 ―平和の願いを未来へ―』

山下美晴（舞鶴引揚記念館 館長）

参加者 48名



②映画上映会

・平成29年5月20日（土）

『帰還証言―ラーゲリから帰ったオールドボーイたち―』前編

監督：いしとびたま

参加者 34名

・平成29年6月17日（土）

『帰還証言―ラーゲリから帰ったオールドボーイたち―』後編

監督：いしとびたま

参加者 32名

③木内信夫氏の来館

「戦争体験を聞く会」のシベリア抑留経験に関する礒田稔氏の講演にあわせ、本展で展示のした抑留絵画の作者木内信夫氏のご家族と来館された。木内氏は世界記憶遺産登録資料の製作者として、世界唯一の生存者である。これにあわせて舞鶴引揚祈念館の山下館長も来館され、一同勢揃いとなった。



○第 18 回企画展示関連

平和学習講座 「梵鐘を守れ！—文化財保護をめぐる戦時下の裏面史—」

- ・講師 井上 優（滋賀県教育委員会 文化財保護課 主幹）
- ・開催日時 平成 29 年 10 月 22 日（日）13：30～
- ・参加者 16 名
- ・事業概要 本展で紹介した元滋賀県職員の日名子元雄さんが供出から梵鐘を守ろうとした姿について、彼が残した「金属回収除外申請」の簿冊にもとづいて講演いただいた。

○第 19 回企画展示関連

戦争遺跡探訪会 「探訪 陸軍飛行場と八日市」

- ・開催日時 平成 30 年 3 月 21 日（水）9：10～12：30
- ・参加者 24 名
- ・事業概要 八日市の街に残る旧陸軍八日市飛行場の痕跡と当時の陸軍関係施設の跡をめぐる探訪ツアーを実施した。近江鉄道八日市駅からバスで林田へ行き、旧御園村役場から出発して、飛行場跡を通過し、八日市鉄道本社事務所であった新八日市駅駅舎を終点とした。（全行程約 7 k m）